



TITLE:

生態機構分野(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

杉山, 幸丸; 森, 明雄; 山極, 寿一

CITATION:

杉山, 幸丸 ...[et al]. 生態機構分野(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報
1994, 24: 17-19

ISSUE DATE:

1994-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/164620>

RIGHT:

報告・その他

一和文一

- 1) 相見 満(1993): 学名の話(15) 台座に秘められた歴史(1). モンキー, 247: 14-17.
- 2) 相見 満(1993): 学名の話(16) 台座に秘められた歴史(2). モンキー, 248: 13-16.
- 3) 相見 満(1993): 学名の話(17) エリマキキツネザル. モンキー, 249: 10-11.
- 4) 相見 満(1993): 学名の話(18) 地球上に生物は一体何種いるのか. モンキー, 250, 251: 12-15.
- 5) 高井正成(1993): アンデス山中における化石発掘調査と調査地の現状について—最古の広鼻猿類化石の再発見—. ヒマラヤ学誌, 4: 69-75.

学会発表

一和文一

- 1) 松野昌展・高井正成・金澤英作(1994): パキスタン高所住民(Tajik)の歯に見られる形態学的特徴. 第99回日本解剖学会, 日本解剖学会講演予稿集
- 2) 高井正成・F. アナヤ(1993): 最古の広鼻猿類化石(*Branisella boliviensis*)の新標本について. 第9回日本霊長類学会, 霊長類研究9(3): 287
- 3) 高井正成・瀬戸口烈司(1993): 南米コロンビア国の中期中新世の霊長類化石—顕著な多型性を示す化石種として—. 日本古生物学会第142回例会, 講演予稿集

社会生態研究部門

生態態機構分野

杉山幸丸・森 明雄・山極寿一

研究概要

- A) 西および中央アフリカに生息する大型類人猿の行動・生態学

杉山幸丸・山極寿一・山越 言¹⁾

全個体識別のもとに長期追跡してきたギニア国

ボッソウの野生チンパンジーについては、堅果割りをはじめとする道具使用行動の詳細な観察とVTR記録の分析、整理を進める一方、野外実験も含めて、道具使用行動全般について発達と伝播の記録・分析を行った。また、近隣個体群との遺伝的・文化的交流関係の分析のため、隣国のコートジボアールにまで広がるニンバ山地での調査を開始した。さらに、生息地の資源量測定と土地利用、採食量把握の試みも開始した。

一方、ウガンダ国ブウィンディ国立公園とガボン国プティ・ロアング保護区では、同所的に生息するゴリラとチンパンジーの採食生態に関する調査を行った。山地林と海岸域の熱帯林という異なる環境における2種の類人猿の共存のメカニズムを分析した。

B) エチオピアに生息するヒヒ類の研究

森 明雄

ヒヒ類の重層社会を行動学的に分析することを目標としている。過去2年間、アジスアベバの北150kmのウオフワッシャでゲラダヒヒの観察を進めてきたが、本年はエチオピア南部の治安が回復し、南部アルシ州で見つけたゲラダヒヒの新しいポピュレーションの調査を再開した。新ポピュレーションの遊動域、ユニットの構成、社会行動は、従来知られているゲラダヒヒのポピュレーションとかなり異なった特徴を持つとの予備的結果を得た。さらに、南部で、マントヒヒとアヌビスヒヒの雑種化の様相を調べるために広域調査を行った。

C) ニホンザルの採食・繁殖生態と個体群動態の研究

杉山幸丸・森 明雄・山極寿一・

Joseph Soltis²⁾

ニホンザルの個体の社会的地位と採食・繁殖戦略との関係の解明のため、大分県高崎山、宮崎県幸島、鹿児島県屋久島の餌づけ群および自然群を対象に研究を進めてきた。食物の時間的、空間的分散の変化のもとで性、年齢、社会的地位の相違により採食行動にあらわれる差の把握につとめ、また、栄養量測定に基づく摂取栄養量の把握と、それらが繁殖成功度と関係している様を検討してきた。特に、幸島群では、採食スピードの時間的変化の解析と、性成熟の遅滞現象に焦点を置き、

- 1) 大学院生 2) 研究生

それらに関わるデータの収集と分析を試みている。

屋久島では人為によるニホンザルの分布様態への影響を分析するために、植林地や伐採地、さらには猿害の出ている農耕地付近のサルの出現頻度や生息数を調べた。また、野生ニホンザルがいかなる食物の認識地図をもつかについて、予備的な調査を行った。

一方、社会、遺伝子情報、器官調節分野と共同で所内放飼集団において性行動、ホルモン測定と父性判定に基づく両性の繁殖戦略を研究した。これらの戦略と関連して順位、繁殖成功率、個体群動態の長期資料を高崎山および幸島において収集した。

さらに、ニホンザルの全生息数を推定しその動態を環境との関連で解明する研究も進めてきた。

総 説

- 1) 杉山幸丸 (1993): 霊長類の父親。父親の事典 (平井信義他編), pp.58-63, ぎょうせい, 東京。
- 2) 杉山幸丸・松沢哲郎 (1993): ボッソウ・チンパンジーの現状と保護。霊長類研究, 9:189-193。
- 3) 山極寿一 (1993): ゴリラとヒトの間。317pp. 講談社現代新書, 東京。
- 4) 山極寿一 (1993): 共存域におけるゴリラとチンパンジーの現状と保護。霊長類研究, 9: 195-206。

論 文

—英文—

- 1) Inoue, M., Mitsunaga, F., Nozaki, M., Ohsawa, H., Takenaka, A., Sugiyama, Y., Shimizu, K. and Takenaka, O. (1993): Male dominance rank and reproductive success in an enclosed group of Japanese macaques : with special reference to post-conception mating. *Primates*, 34:503-511.
- 2) Mitani, M., Yamagiwa, J., Oko, R.A., Moutsambote, J.M., Yumoto, T. and Maruhashi, T. (1993): Approaches in density estimates and reconstruction of social groups in a western lowland gorilla population in the Ndoki Forest, Northern Congo. *Tropics*, 2(4): 219-229.

- 3) Sugiyama, Y. (1994): Tool use by wild chimpanzees. *Nature*, 367:327.
- 4) Sugiyama, Y. (1994): Age specific birth rate and lifetime reproductive success of chimpanzees at Bossou, Guinea. *Am. J. Primatol.*, 32: 311-318.
- 5) Sugiyama, Y., Fushimi, T., Sakura, O. and Matsuzawa, T. (1993): Hand preference and tool use in wild chimpanzees. *Primates*, 34: 151-159.
- 6) Sugiyama, Y., Kawamoto, S., Takenaka, O., Kumazaki, K. and Miwa, N. (1993): Paternity discrimination and inter-group relationships of chimpanzees at Bossou. *Primates*, 34:545-552.
- 7) Yamagiwa, J., Mwanza, N., Spangenberg, A., Maruhashi, T., Yumoto, T., Fischer, A., Steinhauer, B.B. and Reifisch, J. (1992): Population density and ranging pattern of chimpanzees in Kahuzi-Biega National Park, Zaire: A comparison with a sympatric population of gorillas. *African Study Monographs*, 13: 217-230.
- 8) Yamagiwa, J., Mwanza, N., Spangenberg, A., Maruhashi, T., Yumoto, T., Fischer, A. and Steinhauer, B.B. (1993): A census of the eastern lowland gorillas (*Gorilla gorilla graueri*) in Kahuzi-Biega National Park with reference to mountain gorillas *G. g. beringei* in the Virunga Region, Zaire. *Biological Conservation*, 64: 83-89.
- 9) Yamagiwa, J., Mwanza, N., Yumoto, T. and Maruhashi, T. (1994): Seasonal change in the composition of the diet of eastern lowland gorillas. *Primates*, 35: 1-14.
- 10) Yamagiwa, J., Yumoto, T., Maruhashi, T. and Mwanza, N. (1993): Field methodology for analyzing diets of eastern lowland gorillas in Kahuzi-Biega National Park, Zaire. *Tropics*, 2: 209-218.

—和文—

- 1) 山極寿一 (1993): 視線と性。性の民族誌 (須藤建一・杉山敬志編), pp. 295-324, 人文書院。

- 2) 山極寿一 (1994): クモザル亜科と類人猿の社会進化. 生物科学, 46(1): 34-46.

報告・その他

- 1) 山極寿一 (1993): キンビリキッティの自然観. 遺伝, 47(6): 4-5.
- 2) 山極寿一 (1993): ゴリラの繁殖計画へ向けて. どうぶつと動物園, 8: 8-11.
- 3) 山極寿一 (1993): ゴリラとの対話—言語以前のコミュニケーション. FLAME, 13: 17.
- 4) 山極寿一 (1993): 自然保護計画の現状と問題点—森の国・ザイールの試み. 創造の世界, 88: 107-127.

学会発表

- 1) 森 明雄 (1993): ニホンザル幸島群における給餌実験からみた採食戦略. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 9(3):258.
- 2) 杉山幸丸 (1993): 一つの目的に複数の道具を複合的に使う野生チンパンジー. 第12回日本動物行動学会大会発表要旨: 43.
- 3) 杉山幸丸・横田直人 (1993): ボッソウ・チンパンジーの個体群構造. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 9(3): 264.
- 4) 山極寿一 (1993): ヒガシローランドゴリラの個体群動態. 第30回日本アフリカ学会学術大会研究発表要旨: 21.
- 5) 山極寿一・丸橋珠樹・ムワンザ＝ンドゥンダ・湯本貴和 (1993): 採食生態から見たゴリラとチンパンジーの共存関係. 第9回日本霊長類学会大会. 霊長類研究, 9(3): 262.

社会構造分野

加納隆至・大澤秀行・鈴木 晃

研究概要

- A) 中央アフリカザイール森林における野生ボノボの社会及び行動の研究

加納隆至・橋本千絵¹⁾

ザイール共和国ジョル地区ルオ学術保護区ワンバ森林においてボノボ (ビッグミーンチンパンジー) の研究を行っている. ザイールの政情は不安定で現地調査は中断中であるが, 研究結果のとりまとめは進行中である.

- B) コンゴにおける野生チンパンジーとゴリラ研

究

加納隆至

1993年度科学研究費補助金 (国際学術研究) により行ったコンゴ共和国北東部のモタバ川流域におけるチンパンジーとゴリラの密度と狩猟圧に関する研究のとりまとめが進行中である.

- C) 東アフリカにおける野生チンパンジーの研究

加納隆至

東アフリカで現地調査を行い, 広く野生チンパンジーに関する情報を収集した.

- D) 性淘汰, 社会構造に対する要因としての霊長類メスの繁殖戦略

大澤秀行・光永総子²⁾

霊長類における性淘汰, 及び社会構造に影響を及ぼすメスの性行動を研究している. メスの生殖生理学的な解析が重要であるため, 生理学研究者と共同し, これまで放飼場やグループケージ飼育ニホンザルについて調べてきた.

- E) アフリカ乾燥サバンナにおけるオナガザルの野外研究

大澤秀行

カメルーン北部のカラマルエ国立公園において, バタスザルとミドリザルの野外研究を1984年より続けている. 繁殖期に社会変動と繁殖行動の関係について資料を収集している. 1993年度は出産期に, 共同研究者 (シオン短大・中川尚史) が, 新生児をめぐる社会関係の資料を収集した.

- F) オランウータンの社会的, 生態学的研究の続行とまとめ

鈴木 晃

1983年より, インドネシア国東カリマンタンのクタイ国立公園で行ってきたオランウータンの野外調査を継続 (1993年5-6月, 1993年9-11月). さらにこれまでの資料と結果のまとめに取り組んだ.

バジャジャラン大学との共同研究のための体制づくりのための準備もこの間に行った.

特に1993年6月には, 同大学総長の依頼で, 「霊長類の研究の意義と日本の研究者の国際的位置」について講演を行った.

- G) マカク類の比較社会学的生態学的研究

加納隆至・大澤秀行・松村秀一¹⁾

揚妻直樹¹⁾・小川秀司¹⁾・田中香¹⁾

マカク類の社会進化を明らかにするため, ニホンザル (屋久島・高崎山・嵐山・金華山) および,